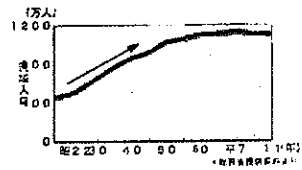


◆水需要の要請

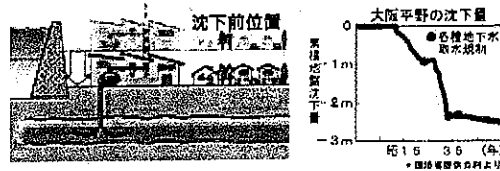
●人口の急増と水需要の拡大



戦前・戦後復興期に、都市部の人口が急増したことで、飲料水や生活用水の需要が拡大しました。

●地下水から河川水への転換

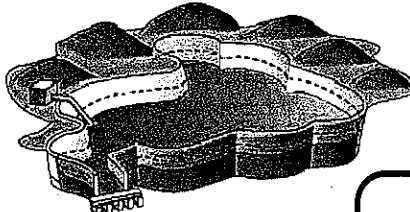
工業用水の需要増加を支えるために、地下水が大量に汲み上げられ、その結果、淀川河口部を中心に激しい地盤沈下が起こりました。



地盤沈下を抑えるため、地下水の汲み上げが規制され、工業用水の水源は地下水から河川水へ求められました。

◆切迫した都市用水への対応

多様な水資源開発を行い、増大する都市用水の需要にあてました。



●ダム開発事業

天ヶ瀬ダム、室生ダム、高山ダム、青連寺ダムなど多目的ダムを建設

開発に伴う課題

●河口では...

下流部の大阪市内河川の維持流量が減少しているため、渇水期には、淀川大閘の魚道に水が流れなくなり、魚の生育が阻害されます。



●ダム下流では...

流量変動(攪乱)がなく、本来、常に砂が動いている砂州に植生が定着してしまうなど、川本来の姿が失われています。



健全な姿を取り戻すために...

●あなたができること

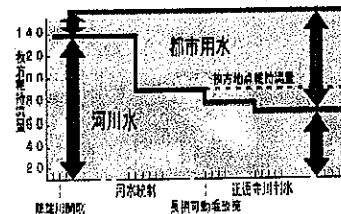
日々の生活の中で、一人一人がちょっとした節水行動を起すことで、水の利用量を抑えていくことができます。

●行政にできること

少子高齢化や産業構造の変化によって、水の需要と供給のバランスが変わってきています。このため、今ある水をより有効に使うために、ダムや堰などの施設の操作の方法や運用を見直すほか、必要な環境対策を実施していきます。

●琵琶湖総合開発事業

琵琶湖の水をより深い水位まで使えるように整備



●維持用水の転用

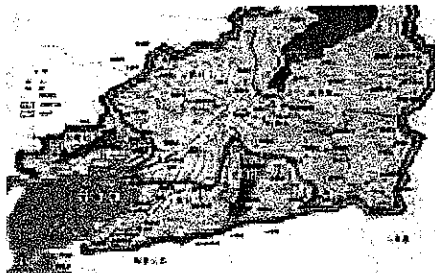
可動堰の活用や河川の埋め立てなどの事業により、大阪市内の河川の維持流量をも削減し、都市用水に転用

●維持流量: 動植物の生育・生態、漁業、景観、治水の確保の維持(水質、河床、砂防、河口閉塞)の防止、河川管理施設の確保、地下水位の維持などに必要とされる流量のこと

◆豊かな日常生活の実現

近畿圏は早くから行われた開発と、琵琶湖の存在により、安定した水の利用が可能になっています。

●供給エリアの拡大



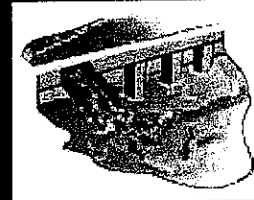
琵琶湖・淀川からの水を利用している地域は、流域外の神戸市など阪神間や大阪府全域和歌山県境にまで広がっています。

◆自然環境の再生



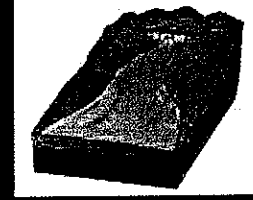
●琵琶湖は...

季節的な水位の変化により、琵琶湖に生育する固有の生物に適した産卵、生息場所が出現します。



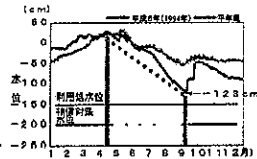
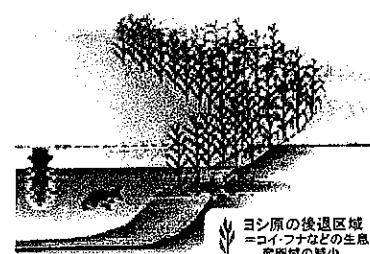
●河口部は...

淀川大堰に設置された魚道には常に水が流れ、生物が自由に行き来できます。このことで、大阪湾からの生物移動の連続性が保たれます。



●ダム下流部は...

流量が常に変化し、時には水量が増すことで川にたまったもや汚れを洗い流します。また、砂州では常に砂の移動が起こり、植物が定着しない姿が保たれます。



コイ、フナなどの産卵期である5~8月くらいの間に水位が下がると、産卵・生息場所が失われてしまいます。